

2022年度 神戸ベルエベル美容専門学校 美容科 カリキュラム

科目		1年次	2年次	1年2年計	実務経験者が 行う授業	
必修 課目	関係法規・制度	0	36	36	×	
	衛生管理	45	61	106	×	
	保健	39	67	106	×	
	香粧品化学	0	72	72	×	
	文化論	12	60	72	×	
	運営管理	10	26	36	×	
	美容技術理論	91	87	178	×	
	美容 実習	カット	157	26	183	○
		シャンプーブロー&スタイリング	101	24	125	○
		カラー	79	13	92	○
		パーマ	98	15	113	○
		ヘアアレンジ	90	0	90	○
		カウンセリング	18	0	18	○
		アシスタント業務	12	0	12	○
国家試験カット		0	121	121	○	
国家試験ワインディング		0	148	148	○	
国家試験オールウェーブ		24	134	158	○	
計	579	481	1060	-		
選択 課目	HR	265	270	535	×	
	マナー	60	10	70	×	
	就職	60	18	78	×	
	選択	研修	33	0	33	×
合計		1194	1188	2382	-	

基本情報			
講義名	関係法規・制度	実務経験のある者の授業	×
授業形態	講義	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	0	36	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
-	-

授業内容	
授業概要	美容師免許を取得し、美容業務に就き、また、将来に独立して美容所を開設する場合に必要なとなる法令について美容師法を中心に、関連する衛生法規を授業及び複数回行う確認テストにて修得させる。
授業の到達目標	美容師国家試験に合格する為の法的知識を修得させる。そのために美容師法や関連法令の内容を体系的に理解させる。 美容師免許取得後の美容師として必要な法令等の理解。

具体的内容		
項目	時間数	内容
法制度の概要	2	社会生活における法の役割、法の形式(憲法・法律・命令・条令・規則) 衛生法規の概要
衛生行政の概要	3	衛生行政の意義と歴史、衛生行政の分類と生活衛生行政の内容 衛生行政を担う行政機関(環境衛生監視員含む) 復習【確認テスト】
美容師法	11	人に関する規定(美容師養成施設～試験)(免許と登録～義務) (業務停止、免許取消、再免許)(登録事項の変更)(管理美容師) 人に関する規定の復習【確認テスト】 施設に関する規定(美容所)(開設～衛生措置)(美容所外での業務) 違反者等に対する行政処分 罰則 行政処分・罰則の復習
関連法規	3	関連法規(運営・衛生・顧客に関する法律) 人に関する規定・関連法規 復習【確認テスト】
まとめ	4	期末テスト対策
国家試験対策	13	法制度の概要・衛生行政の概要 復習問題 人に関する規定 復習問題 施設に関する規定 復習問題 関連法規 復習・問題 テスト対策(国家試験過去問題)(解答・解説)

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	衛生管理	実務経験のある者の授業	×
授業形態	講義	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	45	61	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
-	-

授業内容	
授業概要	美容師国家試験の取得のため、また美容師の職に就くにあたり必要な衛生管理の知識を、授業及び複数回行う確認テストの実施で身に着ける。
授業の到達目標	美容師国家試験に合格する為の衛生管理における知識を修得させることまた、美容師免許取得後の美容師として必要な衛生管理に関する知識の習得を到達目標とする。

具体的内容		
項目	時間数	内容
公衆衛生の概要	6	公衆衛生の意義と課題(公衆衛生発展の歴史、理容師・美容師と公衆衛生) 保健所と理容業・美容業 確認テスト対策 練習問題 解答解説 確認テスト
保健	6	母子保健 確認テスト対策 練習問題 解答解説 確認テスト
テスト対策	5	復習問題 解答解説
環境衛生	12	環境衛生の概要(空気環境 空気と健康 温度、湿度、気流(風)と健康 衣服・居住の衛生) 上・下水道と廃棄物 衛生害虫とネズミ 環境保全 確認テスト対策 練習問題 解答解説 確認テスト
テスト対策	5	環境衛生 復習問題 解答解説
感染症	11	感染症の総論 常在細菌叢 免疫と予防接種 感染症の要因 感染症予防の3原則 感染症の総論 復習 確認テスト
感染症各論	7	感染症各論 理容・美容と感染症、主な感染症 具体的な対策例 感染症各論 復習 確認テスト
テスト対策	6	感染症 復習問題 解答解説
衛生管理技術	7	消毒法総論 消毒とは(消毒の意義 理容・美容の業務と消毒との関係) 消毒法と適用上の注意 消毒法総論 復習 確認テスト
消毒法各論	7	消毒法各論 理学的消毒法 化学的消毒法 すぐれた消毒法とその実施上の注意 消毒法各論 復習 確認テスト
消毒法実習	6	消毒法実習(各種消毒薬 理容所・美容所の消毒の実際 理容所・美容所の清潔法の実際) 消毒法実習 復習 確認テスト
衛生管理の 実践	6	理容所及び美容所における衛生管理要領(衛生的取り扱い等 自主的管理体制) 理・美容所の自主管理点検 衛生管理の実践 復習 確認テスト

具体的内容		
項目	時間数	内容
テスト対策	8	復習問題 解答解説
弱点強化	2	弱点発見問題○×100問 解答解説
衛生管理技術 衛生管理の実践	3	衛生管理技術 衛生管理の実践 復習練習問題(4択) 過去問題 解答解説
1編 公衆衛生	3	復習 練習問題(4択) 過去問題 解答解説
2編 環境衛生	3	復習 練習問題(4択) 過去問題 解答解説
3編 感染症	3	復習 練習問題(4択) 過去問題 解答解説

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	保健	実務経験のある者の授業	×
授業形態	講義	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	39	67	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の实務経験内容
-	-

授業内容	
授業概要	美容師国家試験の取得のため、また美容師の職に就くにあたり必要な保健の知識を、授業複数回行う確認テストの実施で身につける。
授業の到達目標	美容師国家試験に合格する為の保健における知識を修得させることまた、美容師免許取得後の美容師として必要な保健に関する知識の習得を到達目標とする。

具体的内容		
項目	時間	内容
頭部・顔部・頸部の体表解剖学	3	人体各部の名称 頭部、顔部、頸部の体表解剖学 確認テスト
骨格系	4	骨の種類と構造 骨の連結 骨格器系とそのはたらき 確認テスト
筋系	4	筋の種類とその特徴 主な骨格筋とその働き 表情筋と表情運動 美容・美容の作業と筋疲労 確認テスト
神経系	4	神経系の成り立ち 中枢神経と末梢神経 確認テスト
感覚器系	3	視覚 聴覚 平衡感覚 味覚 嗅覚 皮膚感覚 確認テスト
血液・循環器系	4	血液のあらまし 血液循環の仕組み循環経路 心臓と血管のはたらき リンパ管系の仕組みと働き 確認テスト
呼吸器系	5	呼吸器系のあらまし 起動 肺の仕組みとガス交換 呼吸運動 確認テスト
消化器系	5	消化器系のあらまし 仕組み 働き 消化と物質代謝 確認テスト
皮膚科学	26	皮膚の構造 皮膚の構造 確認テスト 皮膚付属器官の構造 皮膚付属器官の構造 確認テスト 皮膚の循環器系と神経系 皮膚と皮膚付属器官の生理機能 皮膚と皮膚付属器官の生理機能 確認テスト 皮膚と皮膚付属器官の保健 皮膚と皮膚付属器官の保健 確認テスト 皮膚と皮膚付属器官の疾患 皮膚と皮膚付属器官の疾患 確認テスト
期末試験対策	22	過去問中心4択問題

具体的内容		
項目	時間	内容
全範囲復習	26	頭部・顔部・頸部の体表解剖学 骨格系 筋系 神経系 感覚器系 血液・循環器系 呼吸器系 消化器系 皮膚科学

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	化粧品化学	実務経験のある者の授業	×
授業形態	講義	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	0	72	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
-	-

授業内容	
授業概要	美容師国家試験の取得のため、また美容師の職に就くにあたり必要な化粧品の知識を、授業及び複数回行う確認テストの実施で身に着ける。
授業の到達目標	美容師国家試験に合格する為の化粧品における知識を修得させることまた、美容師免許取得後の美容師として必要な化粧品に関する知識の習得を到達目標とする。

具体的内容		
項目	時間	内容
化粧品概論	2	化粧品の社会的意義と品質特性 化粧品の規制 化粧品の安定と取扱上の注意 化粧品の安全性
化粧品用原料	16	化粧品の対象となる人体各部の性状 水性原料 油性原料 界面活性剤 高分子化合物 色材 香料 その他の配合成分 ネイル、まつ毛エクステンション用材料 復習(4択問題) 確認テスト
基礎化粧品	7	皮膚洗浄用化粧品(石けん) 化粧水 クリーム・乳液 その他の基礎化粧品 復習(4択問題) 確認テスト
メイクアップ用化粧品	1	メイクアップ用化粧品の種類と剤形 ベースメイクアップ化粧品 ポイントメイクアップ化粧品 復習(4択問題) 確認テスト
頭皮・毛髪用化粧品	11	シャンプー剤 スタイリング剤 パーマ剤 ヘアカラー製品 育毛剤 復習(4択問題) 確認テスト
芳香製品と特殊化粧品	4	芳香製品 特殊化粧品 確認テスト
化粧品化学を理解するための基礎化学	6	物質の構成 溶解とコロイド イオンと水素イオン指数 物質の変化と化学変化 酸化・還元反応 タンパク質
期末試験対策	11	100問○×問題 過去問中心4択問題
全範囲	8	総復習(過去問中心)
4択問題	6	難易度up 4択問題

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	文化論	実務経験のある者の授業	×
授業形態	講義	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	12	60	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
-	-

授業内容	
授業概要	美容師国家試験の取得のため、また美容師の職に就くにあたり必要な美容に関する文化論の知識を、授業及び複数回行う確認テストの実施で身に着ける。
授業の到達目標	美容師国家試験に合格する為の文化論における知識を修得させることまた、美容師免許取得後の美容師として必要な美容に関する文化論の知識の習得を到達目標とする。

具体的内容		
項目	時間	内容
総論	1	総論・理美容業の発生
日本の理容業・美容業の歴史	1	江戸・近代・現代時代の理容業・美容業
ファッション文化史 日本編	21	縄文・弥生・古墳時代 古代(飛鳥・奈良・平安時代) 中世(平安末・鎌倉・室町・戦国時代) 近世(戦国末・安土桃山時代・江戸時代) 近代(明治・大正・昭和20年まで) 現代(1945年～1950年代)(1960年代～1970年代)(1980年代～1990年代)(2000年代以降) 復習 確認テスト
ファッション文化史 西洋編	19	古代エジプト 古代ギリシャ・ローマ 古代ゲルマン 中世ヨーロッパ 近世(16世紀～18世紀) 近代(18世紀末～19世紀) 現代Ⅰ(1910年代～1920年代)(1930年代～1940年代前半)(1940年代後半～1950年代) 現代Ⅱ(1960年代)(1970年代)(1980年代)(1990年代～2010年) 復習 確認テスト
礼装の種類	6	和装の礼装 洋装の礼装 確認テスト
期末試験対策	8	復習 確認テスト
総復習	16	○×問題 解答解説 過去問、ワークブック(4択問題) 解答解説 総復習

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	運営管理	実務経験のある者の授業	×
授業形態	講義	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	10	26	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
-	-

授業内容	
授業概要	美容師国家試験の取得のため、また美容師の職に就くにあたり必要な運営管理の知識を、授業及び複数回行う確認テストの実施で身に着ける。
授業の到達目標	美容師国家試験に合格する為の運営管理における知識を修得させることまた、美容師免許取得後の美容師として社会人として必要な働く上での知識(運営管理)の習得を到達目標とする。

具体的内容		
項目	時間	内容
人という資源、作業員としての視点	9	人という資源、健康・安全な職場環境の実現、従業員としての視点から 復習 確認テスト
経営者の視点	7	経営とは・経営者とは、理容業・美容業の経営について、資金の管理 復習 確認テスト
顧客のために	7	サービス・デザイン、マーケティング、サービスにおける人の役割 復習 確認テスト
期末試験対策	7	○×問題
国家試験対策	6	過去問、ワークブック4択問題 解答解説

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	美容技術理論	実務経験のある者の授業	×
授業形態	講義	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	91	87	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
-	-

授業内容	
授業概要	美容師国家試験の取得のため、また美容師・美容業界で活躍するにあたって重要な美容に関する基礎・応用的な知識を、技術及び接客に活かせるよう、授業及び複数回行う確認テストの実施で身に着ける。
授業の到達目標	美容師国家試験に合格する為の美容技術理論における知識を修得させることまた、美容師免許取得後の美容師・美容業界で活躍するにあたって必要な知識の修得を到達目標とする。

具体的内容		
項目	時間	内 容
序章	1	美容理論と美容技術、美容技術における作業姿勢、美容技術に必要な人体各部の名称
美容用具	2	美容技術における用具(シザー、レーザー、ヘアスチーマー等)
シャンプーイング	5	シャンプーイング総論(サイド・バックシャンプー、リンス・コンディショナー、ヘッドスパ等)
美容技術理論を学ぶにあたって～シャンプーイング	1	確認テスト
ヘアデザイン	3	美容とヘアデザイン 確認テスト
ヘアカッティング	4	ヘアカッティングとは～ヘアカッティングの正しい姿勢 ブロッキング～ベーシックなカット技法、シザーズ・レーザーによるカット技法 確認テスト
パーマネットウェービング	4	パーマネットウェーブの歴史と現在、理論、パーマ剤の分類 パーマ剤に関する注意事項、パーマネットウェーブ技術 ワインディングのバリエーション、縮毛矯正 確認テスト
ヘアセッティング	6	ヘアセッティングとは、パーティング、シェーピング、カーリング ヘアウェービング、ローラーカーリング、ブロードライ アイロンセッティング、バックコーミング、アップスタイル、ウィッグとヘアピース 確認テスト
ヘアカラーリング	5	ヘアカラーリング概論、ヘアカラーの種類、タイプ別特徴 染毛のメカニズム、色の基本、毛髪のレベルとアンダートーン パッチテスト、染毛剤使用時の注意事項、ヘアカラーリングの道具、酸化染毛剤 酸性染毛料の技術手順、ヘアブリーチ 確認テスト
美容技術理論を学ぶにあたって～ヘアカラーリング	24	復習 4択問題練習 解答解説
エステティック	5	エステティック概論、皮膚の整理と構造、カウンセリング、マッサージ理論、 フェイシャルケア技術、フェイシャル及びデコルテマッサージ、 フェイシャルパック、ボディケア技術、ボディマッサージ、確認テスト
ネイル技術	6	ネイル技術概論・種類、爪の構造と機能、爪のカット形状、ネイル技術と公衆衛生 カウンセリング、ネイルケア アーティフィシャルネイル、手と足のマッサージ 確認テスト

具体的内容		
項目	時間	内 容
メイクアップ	6	メイクアップ概論、顔の形態学的な観察、色彩、皮膚の整理と構造、メイクアップの道具 スキンケア、ベースメイクアップ アイメイクアップ、アイブロウメイクアップ、リップメイクアップ ブラッシュオンメイクアップ、まつ毛エクステンション 確認テスト
日本髪	4	日本髪の由来、各部名称、種類と特徴、調和、装飾品、結髪道具 日本髪の結髪技術、手入れ、かつら 確認テスト
着付けの理論と技術	5	着付けの目的、礼装、着物と季節、着物のいろいろ 帯、小物、着物の各部名称、着物のたたみ方、着付けの一般的要領 留袖・振袖着付け技術、帯締め・帯揚げの結び方、男子礼装羽織、袴着付け技術 羽織のひもの結び方、女子袴着付け技術 婚礼着付けの際の注意事項、和装花嫁、洋装花嫁 確認テスト
エステティック～着付けの理論と技術	23	復習 4択問題練習 解答解説
総復習	74	4択問題、○×問題、過去問 解答解説 ワークブック 解答開設 確認テスト

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	美容実習(カット)	実務経験のある者の授業	○
授業形態	実技	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	157	26	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の实務経験内容
美容師	社会に出た際に活かせる実践的な授業を展開する為、美容師免許取得後、美容師として実務を4年以上経験した者で、且つ厚生労働大臣の認定した研修の課程(美容技術理論・実習)を修了した者が授業を行う。

授業内容	
授業概要	美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術(ヘアカット)を習得する為、基本的操作を確実に付け、これらの基本操作を組み合わせ、スタイルを完成させる技術を修得する。美容師国家試験課題でもあるレイヤーカットも取り入れ学び、カット理論や技術をより深く実践的に修得する。
授業の到達目標	美容用具の使用方法、ヘアカットの基本的なスタイルの作成方法を修得し、その基本を組み合わせ思い描くスタイルを美容技術を駆使し具現化することができる、総合的な技術を身に付けること。 美容師国家試験のカット課題の合格基準をクリアできる技術を身に付けること。

具体的内容		
項目	時間	内容
基礎	14	<ul style="list-style-type: none"> •道具の名称と目的の理解 •机上配置、ウィッグのまっすぐな設置の仕方 •コームワーク、ダッカールのとめ方 •ウェットの仕方 •目的に応じたブロッキングの理解
ワンレングススタイル	31	<ul style="list-style-type: none"> •ワンレングスブロッキング、カット姿勢、立ち位置、コームシザーワーク •基本姿勢、シザー・コームワーク習得 •切る手順、ポイント理解 •タイムアップ(目安:全頭40分) •質を上げるカット •タイムアップ(目安:全頭30分) •タイムアップ、確認テスト(目標:全頭25分) •タイムアップ(目安:全頭20分)
グラデーションスタイル	33	<ul style="list-style-type: none"> •スタイル説明と読み解き方の理解・展開図 •グラデーションブロッキング、カット •姿勢、立ち位置、コームワーク、シザーワーク •スムーズなシザー、コームワーク、切る手順の理解 •タイムアップ(目安:全頭40分) •角度の徹底、姿勢の確認 •タイムアップ(目安:全頭30分) •タイムアップ(目安:全頭25分) •タイムアップ(目安:全頭20分) •シザーワークレッスン、角度の徹底、タイムアップ(目安:全頭30分)
シザーワーク見直し	2	<ul style="list-style-type: none"> •シザーワーク復習 •上切り、下切りの理解、実践
セიმレイヤー	30	<ul style="list-style-type: none"> •スタイル説明と読み解き方の理解・展開図 •シザーワークレッスン •セიმレイヤーブロッキング、カット、姿勢、立ち位置 •コームワーク、シザーワーク •オンベースの理解 •切る手順の理解 •タイムアップ(目安:全頭30分) •タイムアップ(目安:全頭25分) •タイムアップ(目安:全頭20分)

具体的内容		
項目	時間	内 容
ワンレンベース 組み合わせ スタイル	30	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングの意味と目的の理解 ・見本掲示、スタイル説明と読み解き方の理解 ・展開図の意味と目的の理解、展開図記入の仕方、ブロッキング ・カット(姿勢・立ち位置・コームワーク・シザーワーク) ・スタイルに応じたフィニッシングブラシの選定、ボリュームに応じた角度の選定 ・スタイリング
グラベース組み合わせ スタイル	30	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングの意味と目的の理解 ・見本掲示、スタイル説明と読み解き方の理解 ・展開図の意味と目的の理解、展開図記入の仕方、ブロッキング ・カット(姿勢・立ち位置・コームワーク・シザーワーク) ・スタイルに応じたフィニッシングブラシの選定、ボリュームに応じた角度の選定 ・スタイリング
人頭ブロー&スタイリング	7	<ul style="list-style-type: none"> ・スタイリング
総復習	6	<ul style="list-style-type: none"> ・弱点強化(スタイルを読み取る、展開図記入、スタイル作成・フィニッシング)

成績

成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。
------------	---

基本情報			
講義名	美容実習(シャンプーブロー&スタイリング)	実務経験のある者の授業	○
授業形態	実技	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	101	24	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
美容師	社会に出た際に活かせる実践的な授業を展開する為、美容師免許取得後、美容師として実務を4年以上経験した者で、且つ厚生労働大臣の認定した研修の課程(美容技術理論・実習)を修了した者が授業を行う。

授業内容	
授業概要	美容師として必要な技術であるシャンプーの技術を、身につける。 技術だけでなく、理論そして相モデルを体験させることにより、接客に対する気づきを促す。
授業の到達目標	美容師免許を取得し、美容室に就職してすぐに即戦力として通用するシャンプー技術を身に付けることを目標とする。

具体的内容		
項目	時間	内容
理論	1	・基礎知識
毛髪・頭皮診断	3	・毛髪の扱い方、毛髪の止め方(ダッカールの使い方)、ブラッシング ・頭皮の状態理解、毛髪頭皮チェック
バックシャンプー	78	・ご案内(セット面～シャンプー台) ひざ掛けのかけ方、イスの扱い方、足置きレクチャー、実践 声のかけ方、タオル、クロスの付け方レクチャー、実践 イスの倒し方、頭の扱い方 ・プレーン シャワーヘッドの持ち方、温度調節、温度確認、シャワーヘッドの角度説明 水の溜め方、手の動かし方説明と実践、トリートメント塗布、プレーンの工程 マッサージレクチャー、実践 タオルドライ、コーミングの仕方、実践 リングスでの違い、扱い方レクチャー タオルターバン説明、実践(ターバン後、別席に移動※崩れないかチェック) 確認テスト ・シャンプー 泡立て説明、レクチャー シャンプーフェイスライン～ネープの説明実践(手の動かし方、頭の持ち上げ方、姿勢) ターバンアウト～コーミング ・弱点強化、総復習
サイドシャンプー	43	・ご案内の復習 ・プレーン フェイスタオルのかけ方レクチャーと実践、シャワーヘッドの持ち方レクチャーと実践 立ち位置 溜めこすりの仕方レクチャー、実践(手の動かし方、シャワーヘッドの角度) タオルドライ、タオルターバンレクチャー、実践 プレーン1線目～5線目レクチャー、実践 肩マッサージ(揉捻・指圧・打法) ネープレクチャー、実践 ・弱点強化、総復習

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	美容実習(カラー)	実務経験のある者の授業	○
授業形態	実技	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	79	13	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
美容師	社会に出た際に活かせる実践的な授業を展開する為、美容師免許取得後、美容師として実務を4年以上経験した者で、且つ厚生労働大臣の認定した研修の課程(美容技術理論・実習)を修了した者が授業を行う。

授業内容	
授業概要	美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術(カラー)を習得する為、基本的操作を確実身に付け、これらの基本操作を組み合わせ、スタイルを完成させる技術を修得する。 ヘアカラーリング理論や実技を繰り返すことにより深く実践的な技術修得をさせる。
授業の到達目標	美容用具の使用方法、ヘアカラーリングの基本を修得し、その基本を組み合わせ思い描くヘアカラーを美容技術を駆使し具現化することができる、総合的な技術を身に付けること。

具体的内容		
項目	時間	内容
カラー基礎知識	4	<ul style="list-style-type: none"> ・内容説明、毛髪の構造の理解 ・染色のメカニズム、薬剤知識、刷毛の使い方、机上配置、道具の理解
グレーカラー	30	<ul style="list-style-type: none"> ・グレーカラーリタッチの知識、リタッチ塗布技術、ハケの使い方、注意点 ・放置の際に必要な技術 ・事前処理方法説明 ・確認テスト
ファッションカラー	30	<ul style="list-style-type: none"> ・ファッションカラー理論 ・リタッチ塗布技術 ・カラーカウンセリング(薬剤選定) ・タイム計測
デザインカラー	28	<ul style="list-style-type: none"> ・実践基礎知識 ・ウィービング練習 ・カラーカウンセリング、実践 ・人頭カラー、ホイールワーク ・ブリーチ薬剤、毛髪理論の理解 ・ブリーチオンカラー、フェイバリットカラーシステム ・作成ウィッグ評価

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	美容実習(パーマ)	実務経験のある者の授業	○
授業形態	実技	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	98	15	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の实務経験内容
美容師	社会に出た際に活かせる実践的な授業を展開する為、美容師免許取得後、美容師として実務を4年以上経験した者で、且つ厚生労働大臣の認定した研修の課程(美容技術理論・実習)を修了した者が授業を行う。

授業内容	
授業概要	美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術(パーマ(ワインディング))を習得する為、基本的な操作を確実に身に付け、これらの基本操作を組み合わせ、スタイルを完成させる技術を修得する。美容師国家試験課題でもあり、ワインディング・パーマ理論や技術をより深く実践的に修得する。
授業の到達目標	美容用具の使用方法、パーマ(ワインディング)の基本的・応用的な知識、技術を修得し、思い描くスタイルを美容技術を駆使し具現化することができる、総合的な技術を身に付けること。美容師国家試験のワインディング課題の合格基準をクリアできる技術を身に付けること。

具体的内容		
項目	時間	内容
理論	2	・パーマの目的、パーマのスタイル説明、ウィッグカットの説明、机上配置
ブロッキング	5	・道具の説明、ブロッキングの取り方、姿勢 ・9ブロッキング ・ブロッキングの復習(チェック)
ウィッグカット	4	・ウィッグカット
センター上巻き	12	・コームの持ち方、立ち位置、姿勢、スライスのとり方 ・ウィッグの丸みを理解したコームワーク、ステムの理解(オンベース)、ペーパー・ロッドの置く位置 ・ロッドのおき方、パネルの挟み方、ペーパーのかませ方 ・ペーパーの巻きこみ方、ロッドの納め方、回し方、ラバーの留め方 ・チェック(正しく巻けているか確認(1本30秒)) ・コームの持ち方、立ち位置、姿勢、スライスのとり方、シェープの仕方 ・ウィッグの丸みを理解したコームワーク、ステムの理解(オンベース)、ペーパー・ロッドの置く位置 ・ロッドのおき方、パネルの挟み方、ペーパーのかませ方 ・ペーパーの巻きこみ方、ロッドの納め方、回し方、ラバーの留め方 ・センターの展開 ・チェック(正しく巻けているか確認)
センター下巻き	12	・コームの持ち方、立ち位置、姿勢、スライスのとり方 ・ウィッグの丸みを理解したコームワーク、ステムの理解(オンベース)、ペーパー・ロッドの置く位置 ・ロッドのおき方、パネルの挟み方、ペーパーのかませ方 ・ペーパーの巻きこみ方、ロッドの納め方、回し方、ラバーの留め方 ・チェック(正しく巻けているか確認(1本30秒)) ・コームの持ち方、立ち位置、姿勢、スライスのとり方、シェープの仕方 ・ウィッグの丸みを理解したコームワーク、ステムの理解(オンベース)、ペーパー・ロッドの置く位置 ・ロッドのおき方、パネルの挟み方、ペーパーのかませ方 ・ペーパーの巻きこみ方、ロッドの納め方、回し方、ラバーの留め方 ・チェック(正しく巻けているか確認)
ブロッキング復習	8	・ブロッキングの取り方(5ブロッキング) ・チェック
上巻復習	8	・復習
下巻復習	8	・復習
センター綺麗巻き	8	・ステムの確認、ロッドの取り、毛先の飛び出し
タイム計測	11	・1本30秒で巻けるようタイムアップ ・センターブロッキングなし 10分30秒
センター巻き方チェック	7	・ブロッキングを取った状態から、センター10分30秒

具体的内容		
項目	時間	内 容
復習(各項目強化)	21	・ブロッキング強化
		・上巻き、下巻きの基礎強化(ステムの確認、ロッドの収まり、毛先の飛び出し、シェープ)
		・センター強化(ブロッキング込み8分30秒)
確認テスト	7	センター ブロッキング込み8分30秒

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	美容実習(ヘアアレンジ)	実務経験のある者の授業	○
授業形態	実技	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	90	0	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
美容師	社会に出た際に活かせる実践的な授業を展開する為、美容師免許取得後、美容師として実務を4年以上経験した者で、且つ厚生労働大臣の認定した研修の課程(美容技術理論・実習)を修了した者が授業を行う。

授業内容	
授業概要	美容の業務を安全かつ効果的に実施する技術(ヘアセット)を習得する為、基本的操作を確実に身に付け、これらの基本操作を組み合わせ、スタイルを完成させる技術を修得する。 セット・スタイリング理論や技術をより深く実践的に修得する。
授業の到達目標	美容用具の使用方法、ヘアセットの基本的な知識、技術を修得し、思い描くスタイルを美容技術を駆使し具現化することができる、総合的な技術を身に付けること。

具体的内容		
項目	時間	内容
道具	1	・道具の名前と用途の理解
基礎	1	・ブラッシングの仕方、スライスの取り方、ダックカールの留め方、実践
ピン打ち	2	・平打ち、隠し打ち、返し打ち
カールアイロン	10	・カールアイロンの使い方 ・縦巻きの説明、実践 ・平巻きの説明、実践
ストレートアイロン	10	・内巻き、外はね ・ウェーブ、根元のボリュームアップ、ダウンの仕方
ロープ編み フィッシュボーン	11	・ロープ編みの説明、実践 ・フィッシュボーンの説明、実践
ハーフアップスタイル	11	・スタイル説明、ベースの作り方 ・スタイルバランス、くずし方、ボリュームの位置 ・ゴムの結び方、ピンの留め方
編みおろしスタイル	13	・スタイル説明、ベースの作り方 ・スタイルバランス、くずし方、ボリュームの位置 ・ゴムの結び方、ピンの留め方
お団子ヘアスタイル	15	・スタイル説明、ベースの作り方 ・スタイルバランス、くずし方、ボリュームの位置 ・ゴムの結び方、ピンの留め方
ルーズネープシニヨン	16	・スタイル説明、ベースの作り方 ・スタイルバランス、くずし方、ボリュームの位置 ・ゴムの結び方、ピンの留め方

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	美容実習(カウンセリング)	実務経験のある者の授業	○
授業形態	実技	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	18	0	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
美容師	社会に出た際に活かせる実践的な授業を展開する為、美容師免許取得後、美容師として実務を4年以上経験した者で、且つ厚生労働大臣の認定した研修の課程(美容技術理論・実習)を修了した者が授業を行う。

授業内容	
授業概要	美容師として必要なカウンセリング及び接客の知識、技術を身につける。 相モデルの体験、他の技術と連動させる実践的な授業を行い、接客に対する気づきを促す。
授業の到達目標	美容師免許を取得し、美容室に就職してすぐに通用する接客技術、カウンセリング能力を身に付けさせ即戦力となれる技術及び知識を身に付けさせることを目標とする。

具体的内容		
項目	時間	内容
印象・基礎	3	<ul style="list-style-type: none"> 接客における正しい姿勢、言葉遣い等 お客様から好感を頂ける接客、接客用語、クッション言葉 ご来店からカウンセリングまでの流れ
カウンセリング基礎・知識	6	<ul style="list-style-type: none"> カウンセリングの知識(毛量、頭皮、骨格) カウンセリングの基本 現状と理想の把握、選ばれるカウンセリング力、メラビアンの方則 お客様から信頼して頂くためのスキル アフターケア(パフォーマンスサイクル)
カウンセリング知識	6	<ul style="list-style-type: none"> カットの知識、形の理解 グループワークで展開図を見極める カットカウンセリング実践、記入 カラー剤の種類、薬剤の仕組み、カラー技術の種類 パーマの種類、薬剤の仕組み、ロッドによるスタイルの違い カラーパーマカウンセリング実践、記入
カウンセリング応用	3	<ul style="list-style-type: none"> 似合わせ提案カウンセリング 顔型フォルム、黄金バランス バンゲデザイン、アイゾーン種類、フロントテクニック 似合わせ提案カウンセリング実践・記入

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	美容実習(アシスタント業務)	実務経験のある者の授業	○
授業形態	実技	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	12	0	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の实務経験内容
美容師	社会に出た際に活かせる実践的な授業を展開する為、美容師免許取得後、美容師として実務を4年以上経験した者で、且つ厚生労働大臣の認定した研修の課程(美容技術理論・実習)を修了した者が授業を行う。

授業内容	
授業概要	美容師として就職した際に一番初めに行うアシスタント業務について理解や知識を身につける。
授業の到達目標	美容師免許を取得し、美容室に就職してすぐに必要なアシスタントとしての業務内容の理解、習得をし身に付けさせ即戦力となれる人材となること目標とする。

具体的内容		
項目	時間	内容
アシスタントヘルプ業務	12	<ul style="list-style-type: none"> ・技術準備 ・カラーヘルプ、パーマヘルプ ・シャンプー(案内、技術) ・サロンで使用する器具、機器の操作 ・消毒器具の実際の使用方法、

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	美容実習(国家試験課題カット)	実務経験のある者の授業	○
授業形態	実技	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	0	121	

※その年の国家試験課題により「国家試験課題カット、ワインディング、オールウェーブ」の内で時間数調整が入ることが御座います。

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
美容師	社会に出た際に活かせる実践的な授業を展開する為、美容師免許取得後、美容師として実務を4年以上経験した者で、且つ厚生労働大臣の認定した研修の課程(美容技術理論・実習)を修了した者が授業を行う。

授業内容	
授業概要	美容師国家試験課題カットの合格に向けてのカッティング技術を身に付ける。カット技術、理論、衛生面での知識を学び、確実に美容師国家試験に合格できるよう反復練習、弱点強化を授業にて実施する。
授業の到達目標	美容師国家試験のカット課題の合格基準をクリアできる技術・知識を身に付けること。

具体的内容		
項目	時間	内容
理論・展開図	1	・国家試験スタイル仕上がり見本提示、スタイル説明、理論・展開図
国家試験スタイル	78	・ブロッキング ・ガイドのカット ・部位別のカット指導(フロント・フェイスライン、ヘムライン、バックアンダーセクション) ・部位別のカット指導(バックオーバーセクション、サイドセクション) ・チェックカット指導と実践、審査項目の説明 ・全頭タイム取り(25分)(20分) ・衛生チェック、復習 ・確認テスト
衛生指導	3	・準備物確認、衛生審査項目確認、落下物の取り扱い ・手指消毒、机上準備、止血処置の仕方 ・衛生準備時間の工程確認
国家試験課題 弱点強化 タイム強化	39	・国家試験課題 工程復習 弱点強化 部分別によるカット、国家試験に準ずるチェック、タイム強化 衛生面 確認内容(机上準備、落下物の取り扱い、手指消毒、止血処理) 弱点別グループ分けでの強化

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	美容実習(国家試験課題ワインディング)	実務経験のある者の授業	○
授業形態	実技	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	0	148	

※その年の国家試験課題により「国家試験課題カット、ワインディング、オールウェーブ」の内で時間数調整が入ることが御座います。

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
美容師	社会に出た際に活かせる実践的な授業を展開する為、美容師免許取得後、美容師として実務を4年以上経験した者で、且つ厚生労働大臣の認定した研修の課程(美容技術理論・実習)を修了した者が授業を行う。

授業内容	
授業概要	美容師国家試験課題ワインディングの合格に向けてのワインディング技術を身に付ける。ワインディング技術、理論、衛生面での知識を学び、確実に美容師国家試験に合格できるよう反復練習、弱点強化を授業にて実施する。 ※国家試験課題はワインディングかオールウェーブのどちらかであり、その年度の課題がどちらになるかにより授業時間数は異なる。
授業の到達目標	美容師国家試験のワインディング課題の合格基準をクリアできる技術・知識を身に付けること。

具体的内容		
項目	時間	内容
スタイル説明	2	・机上準備の仕方、オールバック、ブロッキング
上巻き・下巻き	3	・センター配列 ・スライスの取り方、コームの使い方、シェーブ、ステム ・ペーパー・ロッドの位置、巻き方、ラバーの留め方
センター	5	・センター15本 ・センターブロッキング込み6分 ・確認テスト
フロント	3	・ブロッキング、配列 ・スライス、シェーブ、ステム確認、タイム意識
バックサイド・サイド	5	・サイド展開収まり説明、デモ、実践 ・タイム意識
パート毎の強化	8	・センター、フロント、バックサイドタイム ・スライスの正確性を上げる、立ち位置。
全頭20分	9	・姿勢、立ち位置、ロッドの位置確認 ・タイム意識
復習	6	・全頭20分 ・配列、収め方、左右対称 ・タイムアップ
衛生	2	・机上準備、道具の取り扱い、採点項目について
タイムアップ・バランス強化	35	・衛生面込みのタイムアップ、バランス強化 ・国家試験基準の減点項目を基に強化
テスト	12	・模擬テスト(国家試験基準)
弱点強化	28	・個別弱点の強化、衛生面強化
シンメトリーステム強化	20	・衛生面込みのタイムアップ、国家試験で減点されない作品作り
セクション強化	10	・センターまっすぐ、左右シンメトリー、フロント・バックサイドの収まり ・全体のステム角度

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。

基本情報			
講義名	美容実習(国家試験課題オールウェーブ)	実務経験のある者の授業	○
授業形態	実技	必修/選択	必修
授業時間数	1年次	2年次	
	24	134	

※その年の国家試験課題により「国家試験課題カット、ワインディング、オールウェーブ」の内で時間数調整が入ることが御座います。

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
美容師	社会に出た際に活かせる実践的な授業を展開する為、美容師免許取得後、美容師として実務を4年以上経験した者で、且つ厚生労働大臣の認定した研修の課程(美容技術理論・実習)を修了した者が授業を行う。

授業内容	
授業概要	美容師国家試験課題オールウェーブの合格に向けてのオールウェーブ技術を身に付ける。技術、理論、衛生面での知識を学び、確実に美容師国家試験に合格できるよう反復練習、弱点強化を授業にて実施する。 ※国家試験課題はオールウェーブかワインディングのどちらかであり、その年度の課題がどちらになるかにより授業時間数は異なる。
授業の到達目標	美容師国家試験のオールウェーブ課題の合格基準をクリアできる技術・知識を身に付けること。

具体的内容		
項目	時間	内容
ウイッグの馴染ませ コームの動かし方	6	<ul style="list-style-type: none"> ローション塗布の仕方(根元塗布)、水分量の説明 コームの持ち方、動かし方、オールバックの仕方 ハーフウェーブの説明
ハーフウェーブ・リッジ	13	<ul style="list-style-type: none"> 左右オープンエンドのハーフウェーブ、リッジの作り方デモと作成 コームの持ち方、使い方、動かし方確認 ハーフウェーブリッジの復習 シェープの方向 ハーフウェーブの幅 リッジの割れ 確認テスト
各セクション	28	<ul style="list-style-type: none"> 1段目馬蹄形、ハーフウェーブ 1段目馬蹄形、スカルプチュア 2段目ハーフウェーブ、リッジ 3段目～7段目 確認テスト バランス強化
全頭ループ1段目のみ	2	<ul style="list-style-type: none"> バランスの確認 ハーフウェーブリッジ 正しいループが作れているか タイム強化 美しい作品作り
7段目カール	4	<ul style="list-style-type: none"> クロッキノールカール指導、デモ、作成 クロッキノールのシェープの仕方 ピンニング確認
1段目・7段目復習	3	<ul style="list-style-type: none"> 全頭25分 1・7段目カールあり
各セクション・技術	33	<ul style="list-style-type: none"> 1段目馬蹄形スカルプチュア 3段目スカルプチュアカール 左右リフトカール メイポールカール クロッキノールカール
衛生面指導	3	<ul style="list-style-type: none"> 準備物確認 衛生審査項目確認、用具類の説明、準備の仕方

具体的内容		
項目	時間	内 容
強化	20	<ul style="list-style-type: none"> ・フィンガーウェーブ強化 ・ループ強化 ・タイム強化(全頭25分) ・確認テスト ・弱点強化
テスト対策	12	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生面強化 ・全体のバランス、つながり強化
衛生含む全頭 (25分)	34	<ul style="list-style-type: none"> ・準備(7分)、全頭+顔拭き(25分) フェイスライン付近の作り方 用具を落とさないようにする、落とした場合の処理 タイム内に顔を拭き、ピンが外れていないかの確認 強化ポイント指導 作業終了後の衛生1分(国家試験審査基準を基に強化) ・模擬試験 ・弱点強化(模擬試験結果を踏まえ、ランク別弱点強化)
成績		
成績評価の方法・基準	<p>出席状況、授業への取り組み姿勢、学期末テスト、授業にて行う確認テストの成績、レポート提出等で総合的に成績評価を行う。出席率が85%以上で、且つ学期末テストの試験成績が60点以上であることを履修認定の基準とする。</p>	

基本情報			
講義名	HR	実務経験のある者の授業	×
授業形態	講義	必修/選択	選択
授業時間数	1年次	2年次	
	265	270	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の实務経験内容
-	-

授業内容	
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> 生徒間のコミュニケーション向上。 コンプライアンスや一般常識、社会の危険知識を身に付ける。 イベントを通して美容の面白さや、多くの人との関わり合い・協調性を身に付ける。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 学生生活での一般常識や守らなければならないこと、チームで力を合わせ取り組む姿勢、社会に出てからの一般常識や危険性の知識習得を目標とする。

具体的内容		
項目	時間数	内容
リーダー任命式・セミナー	10	・生徒間コミュニケーション向上、学校ルール
ベルコレ	24	・生徒の制作発表イベント ・作品の製作、準備、技術訓練、発表
防災対策	20	・消防署からのアドバイス、訓練、災害種別による避難
防犯対策	24	・犯罪被害予防、不審者、不審物、スニーカー被害
薬物乱用	12	・薬物の危険及び影響、薬物や有機溶剤及び医薬品の乱用
コンプライアンス	12	・コンプライアンスの意味、法令に係る道徳や倫理
社会貢献	36	・地域活動、地域行事参加
人権	12	・人権の意味、一般的に侵害されやすい事柄
交通法規	12	・歩行者側、自転車側、自動車側、交通法規の遵守
知的財産	12	・身近にある知的財産権、知的財産の種類
個人情報保護	12	・個人情報、個人識別符号の種類、個人情報の取扱
情報セキュリティ	12	・パソコンやデータ保存機器類の取扱、重要な情報への対策
マナー	12	・言葉遣い、服装、電話応対、来客対応
ビジネス文書	6	・挨拶文、宛名の書き方、メール
SNS	42	・フェイスブック、ツイッター、インスタグラム、LINE、の特徴や危険性、対処
冠婚葬祭	6	・慶事、弔事、贈答
仕事・組織	8	・チームでの仕事、仕事の進め方
職場生活	8	・整理整頓、勤務態度行動
社内外トラブル	12	・起こりうるトラブル
個別弱点強化	126	・個々の苦手科目強化及び指導
進路相談	24	・希望就職先、職種類
特別講習	22	・卒業生やサロン 企業従事者による講義
ハラスメント	20	・セクシャルハラスメント、パワーハラスメント、具体例、防止、復習
コミュニケーション	12	・社会人・組織のコミュニケーション
妊娠講習	6	・妊娠についての講習、命の大切さについての学び
警察講習	12	・警察署からの防犯等に関する講習
HR	21	・その他ホームルーム

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、レポートの提出等を総合的に判断し、成績評価を行う。

基本情報			
講義名	マナー	実務経験のある者の授業	×
授業形態	講義	必修/選択	選択
授業時間数	1年次	2年次	
	60	10	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の実務経験内容
-	-

授業内容	
授業概要	職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくための必要なマナー・スキル・人間力を取得させる
授業の到達目標	卒業後、業界・就職先にて技術だけでなく、接客のプロとして即戦力で活躍できる人材に育成することを目標とする。

具体的内容		
項目	時間数	内容
主体性 I	4	定義(物事に進んで取り組む力)の理解 定義を理解した上での、現状「できていないところ」に気付く
主体性 II	4	今後改善しなければならない事を理解する。 事例をもとに、改善に向け訓練をおこなう。
実行力 I	4	定義(目的を設定し確実に行動する力)の理解 定義を理解した上での、現状「できていないところ」に気付く
実行力 II	4	今後改善しなければならない事を理解する。 事例をもとに、改善に向け訓練をおこなう。
柔軟性 I	4	定義(意見の違いや立場の違いを理解する力)の理解 定義を理解した上での、現状「できていないところ」に気付く
柔軟性 II	4	今後改善しなければならない事を理解する。 事例をもとに、改善に向け訓練をおこなう。
課題発見力 I	4	定義(現状を分析し目的や課題を明らかにする力)の理解 定義を理解した上での、現状「できていないところ」に気付く
課題発見力 II	3	今後改善しなければならない事を理解する。 事例をもとに、改善に向け訓練をおこなう。
ストレスコントロール力 I	4	定義(ストレスの発生源に対処する力)の理解 定義を理解した上での、現状「できていないところ」に気付く
ストレスコントロール力 II	3	今後改善しなければならない事を理解する。 事例をもとに、改善に向け訓練をおこなう。
創造力 I	3	定義(新しい価値を生み出す力)の理解 定義を理解した上での、現状「できていないところ」に気付く
創造力 II	3	今後改善しなければならない事を理解する。 事例をもとに、改善に向け訓練をおこなう。
挨拶	2	あいさつをする理由 あいさつの順序 あいさつの言葉と注意事項 実践訓練
礼節	2	礼儀を学ぶ意義 礼儀とは 礼の仕方と目的
話し方・聞き方	4	好印象を与えるための正しい聞き方 傾聴 好印象を与えるための正しい話し方

具体的内容		
項目	時間数	内容
5S	2	5Sとは(整理・整頓・清潔・清掃・躰)「片づけは、雑務じゃない」ことを知る 確認テスト
電話応対	3	電話応対時の声の出し方 電話応対に使う敬語 電話対応でよく使う尊敬語・謙譲語・丁寧語 実践訓練
名刺	2	名刺交換のマナー 名刺交換の順番
手紙の書き方	2	縦書きの手紙のマナー 横書きの手紙のマナー
冠婚葬祭	1	冠婚葬祭の決まり事(冠について、婚について、葬について、祭について、慶事、弔事について)
報告・連絡・相談	4	「報告」、「連絡」、「相談」の違い 正しく伝える「報・連・相」の実践ポイント
人間関係	4	職場・組織での人間関係 自分に価値を持つ 友達と同僚のけじめ、他人と比較しない 確認テスト
成績		
成績評価の方法・基準		出席状況、授業への取り組み姿勢、確認テスト、レポートの提出等を総合的に判断し、成績評価を行う。

基本情報			
講義名	就職	実務経験のある者の授業	×
授業形態	講義	必修/選択	選択
授業時間数	1年次	2年次	
	60	18	

担当教員(実務経験のある者の授業の欄が○の場合記載)	
職種	担当する教員の实務経験内容
—	—

授業内容	
授業概要	希望する就職先に入る為の就職活動をする上での対策・マナーの学習はもちろんのこと、自分の将来を考えた上での企業の選定方法や選定する上で気を付けなければならないことを学ぶ。
授業の到達目標	生徒が持っている将来像をはっきりとしたものにさせ、その将来像を目指すにあたっての企業選定や、就職活動をする上での対策やマナー等を習得させ、より良い就職をさせることを目標とする。

具体的内容		
項目	時間数	内 容
美容業界とは	2	美容業界の仕事とは
		サロンの種類について、サロン規模の違い
		有名店(人気ブランドサロン)
		業務委託サロン
美容業界の職種		
社会常識	1	社会人の常識、美容業界の常識
就職活動の流れ	1	年間就活スケジュール、有名店の就職スケジュール
サポート説明	1	就職活動の流れを説明、早い段階で多くのサロンを知っておくメリット
求人票の見方	1	求人用語と求人票の見方について
サロン見学	1	サロン見学のマナー
電話の練習	1	電話のかけ方や質問内容
履歴書の書き方	3	応募書類について、履歴書の書き方
企業研究	3	企業・サロンについての研究
会場ガイダンス①	6	多くのサロンを知る
		働き方や条件を見比べる
キャリアプラン	6	自己分析
		過去の自分を振り返る、現在の自分を見つめる、将来の自分を考える
		自己PR
証明写真	1	証明写真について
面接練習	6	志望動機、面接試験について、面接シミュレーション、集団模擬面接
会場ガイダンス②	6	自分の働きたいサロンの条件をピックアップし参加する
就職内定後講習	4	自分の就職先が本当に自分の条件に合っているか
		卒業前教育
面談	35	各授業後の振り返り

成績	
成績評価の方法・基準	出席状況、授業への取り組み姿勢、確認テスト、レポートの提出等を総合的に判断し、成績評価を行う。

